

# 西光寺だより

第四号 平成二十二年十二月一日発行

十二月、今年もいよいよ終わりの月となりました。年の瀬になると感じますが、月日の経つのは本当に早いものですね。

皆様はこの一年どのような過ごしになりましたでしょうか。満足のいく一年でしたか、それとも心残りのある年となりましたか？もしかしたら、あまり変わりなくという方も多いかもしれません。

しかし、この世に変わらずにいられるものは何ひとつとしてなく、すべてが刻々と移りかわっています。仏様はそのことを「無常」ということばで表わされています。

それでもなお、いまここに変わらぬ私たち「いのち」。この一年、変わらず存在してくれたこの「いのち」に改めて感謝いたしましょう。

## ◆十二月・一月の行事◆

十二月三十一日（金） 午後十一時五十分より鐘つき

一月一日（土） 午前十時より元旦会

お勤めは 正 信 偈

## ●今月のことば●

### まこと いのち 『充実の生命』

私の この若者の あの人「いのち」、

一輪の花 一粒の米の「いのち」、

大地に足をつけて 共に生きる充実の「いのち」を

お念佛とともに ふくらませてゆこう



## ◆先月の報告◆

十一月二十三日午後二時・七時、西光寺本堂にて追弔会・報恩講法要が行われました。今年一年間西光寺講の中で、九人の方々がご往生され、その思いを皆様とともに偲びながらお念仏いたしました。

人は必ず死を迎えなければなりません。お寺での法要などでは、死について命のありようについて考える機会があります。そのような機会をとおして死を身近に感じるにより、自分自身の今を見ることが出来ます。そして、毎日誰かが亡くなっているこの無常の世界で、自分はまだこうして生きているということ。それこそが奇跡なんだと感謝の思いでお参りすることが、日々の生活の中でも大切なことと気付くことが出来ます。

報恩講のご法話をさせていただいた巖水法乗先生も、あたりまえの事があたりまえではない。おかげ様なんだと、そこに仏法の心があるんだとお話下さいました。その仏法の心を浄土真宗開祖親鸞聖人のご命日にあたって、感じていただけたらと思います。

京都西本願寺（本山）では、来年一月九日から十六日まで御正忌報恩講がつとまります。親鸞聖人のご命日の法要を本山で迎えるのも、なかなか良いものです。また、十六日のお晨朝（朝六時から）は阿弥陀経漢音に引き続き、一年に一度しか勤められない正信偈真譜という珍しい正信偈が勤まります。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょう。

最後に、報恩講法要のため前日から境内清掃・法要準備、そして終わってからの後片づけまで御協力頂いた講員の方々、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

## ◎あしがき◎

私事ではございますが、十一月五日我が家に第二子となる男の子が誕生しました。

名前は、遼（りょう）と申します。遼（はるか）な未来へ向かって大きなあれ、そんな思いを込めて名付けました。

新しい命に出会えると、こんなにも重く愛おしいものかと改めて感じさせられます。この尊い出会いは、ご先祖様よりつながり受け継がれてきた命の出会いなのです。

そうして繋がり繋がって来た私たちが、ご縁あって出会えていること。人と人との出会いもまた尊い命と命の出会いということを感じていきたいと思えます。

どうぞ皆様、私共ともどもよろしくお願いいたします。そして、改めて皆様との出会いに感謝いたします。

## 「年末のご挨拶」

本年中は、西光寺にご尽力いただき誠にありがとうございました。総代様はじめ役員の皆様方、またご門徒の皆様のお力添えにより無事に一年を積み重ねることが出来ました。

来年もさらなる一歩にむけて精進してまいりたいと思えます。西光寺では、通年どおり除夜の鐘で年を越し、元旦会で新たな年を迎えます。過ぎ去った一つ一つの思いを、み仏のお心に照らしながら、さて来年、どう生きるべきかを考えてみましょう。

皆様のお越しをお待ちいたしております。そして、どうぞ良いお年をお迎えくださいませ。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>